



東地中海地域ニュース

イラン情勢(24)：アフマディーネジャード大統領 2 期目開始

研究員 山崎 和美

8月3日に認証式、5日に就任宣誓が実施され、アフマディーネジャード大統領の2期目が開始した。

しかしながら、ムーサヴィー元首相らは選挙に不正があったとして敗北を受け入れておらず、ムーサヴィー氏を支持する改革派ハータミー前大統領と保守穏健派ラフサンジャーニー元大統領は式典を欠席するなど、保守派支配の現体制に挑戦する姿勢を崩していない。5日の就任宣誓式の最中にも国会周辺で「独裁者に死を」と大統領を批判する抗議デモが散発し、治安当局が武力で排除した。

さらに、大統領にとって頼み綱である保守派議員からも批判の声が上がっている。選挙結果を早々と支持し、後ろ盾になってきたハーメネイー師とは7月中旬ごろから副大統領人事をめぐる対立していた。国营通信は、ハーメネイー師が3日の認証式で、大統領を「勇気と洞察力に満ち、働き者だ」と称賛したものの、大統領が恭順の意を示すために同師の手にキスするのを拒否したと報じ、両者のしこりが解消していないことが浮き彫りになっている。

対外関係においても問題が山積している。3日の認証式では、欧州連合(EU)は議長国スウェーデンを除き、出席者のランクを大使から次席以下に落とした。欧米諸国と大統領の「対立」は容易に収まりそうもない。米政府に関しては、事実上承認するかのような発言をしておきながら、のち撤回するなど、核問題解決をめぐる対応に苦慮する様子が見受けられる。

そのような状況の中、日本政府は大統領就任を祝福する書簡を送付し、正式に承認した。大量の石油をイランから購入している日本は、欧米とは違う独自の友好関係をイランとの間で構築している。

内政

最高指導者：大統領再選を公式に承認

3日、アフマディーネジャード大統領が2期目(任期4年)に入る認証式が国会で行われ、最高指導者ハーメネイー師が、アフマディーネジャード大統領の再選を公式に承認した。同国憲法に基づき、正式就任のためには最高指導者の承認が不可欠である。大統領は5日の就任式後、2週間以内に閣僚名簿を国会に提出する。

アフマディーネジャード大統領：就任宣誓式

5日、アフマディーネジャード大統領の2期目の就任宣誓式が国会で行われた。選挙に不正があったとする改革派の反発は一向に収まらず、その上、側近人事をめぐる身内の保守派からも批判を浴びるなど政権の動揺が続いている。こうした状況の中、組閣が今後の焦点となる。

5日の就任式において大統領は「我々は互いに手を携え、前進すべきだ」と国民の結束を求めた。大統領は演説で、過去最高の投票率を記録した今回の大統領選を「国民の名誉」と評価し、「(こうした投票行動に)敵は怒りを募らせ(選挙の公平さに)疑義を挟んだ」と述べ、選挙後の混乱の原因を「敵の陰謀」と主張した。

大統領就任宣誓に対する抗議行動

5日、就任式が執り行われた国会周辺において、大統領選の不正疑惑を理由に政権の正統性を否定する改革派ムーサヴィー元首相支持派の数百人と、治安部隊が衝突し、催涙弾が発砲される騒ぎになった。

外政

大統領：就任宣誓において対外強硬姿勢強める

5日の就任式においてアフマディーネジャード大統領は、選挙後の混乱で政権の正統性に疑問の声が上がる中で、英独仏の首脳が再選への祝辞を控えたことに反発し、「我々は(欧米の)傲慢に立ち向かい、新しい世界秩序の形成に役割を果たす」と述べ、欧米との対決路線の継続を鮮明にした。

6日付読売新聞によれば、大統領が選挙後の混乱収拾にあたって、国民の批判を外に向ける目的で「欧米の介入」を非難し続けたことで、融和姿勢への転換は困難になっている。むしろ、求心力回復のため、欧米批判を強めて、緊張を高め、国内引き締めを利用しようと考えている可能性が高い。

5日付朝日新聞によれば、英独仏が祝辞を控えた背景には、大統領がもともと過激な反イスラエル発言などで物議を醸してきたうえ、大統領選の不正を訴える改革派のデモを武力で制圧し、有力者を訴追するなど強圧的な姿勢をとり続けていることへの反発がある。また、ここで再選を祝福すれば、反イラン感情が高まっている自国内からの批判にさらされかねない。

麻生首相：イラン大統領に祝意

2日および4日付産経新聞によれば、日本政府は2日までに、イランのアフマディーネジャード大統領が再選されたとの選挙結果を追認する方針を固めた。城田安紀夫駐イラン大使が3日の認証式、5日の就任宣誓式に出席した。

国営イラン通信は4日、麻生太郎首相が、6月の大統領選で勝利したアフマディーネジャード大統領に再選を祝福する手紙を送ったと報じた。

これまでイランと友好関係にあるシリアや北朝鮮が祝電を送り、中国とロシアの首脳は先の上海協力機構(SCO)首脳会議で大統領に直接祝意を伝えた。しかし、ドイツなど欧州主要国は大統領選後の抗議デモで死傷者が出たことなどを考慮し、祝電を見合わせている。

イランのメディアによると、麻生首相はアフマディーネジャード大統領に対し「イランが世界と地域の平和と安全のため重要な役割を果たすことを期待している」とした上で、任期中の2国間関係拡大に期待を示した。

オバマ米政権：イラン大統領の正統性承認発言後、撤回

4日付毎日新聞によれば、ギブズ米大統領報道官は4日、イランのアフマディーネジャード大統領を「(選挙で)選ばれた指導者」と呼ぶなど政権の正統性を事実上認めるかのような発言をした。異議を唱えれば「内政干渉」としてイランに付け入るすきを与えるとの判断があると見られた。

しかし、ギブズ米大統領報道官は5日、前日のコメントを撤回した。オバマ大統領の遊説先のインディアナ州に向かう機中で記者団に語った。米政府として、イラン大統領選の結果を容認しているかのように受け止められたため、軌道修正した形だ。

本「かわら版」の許可なき複製、転送、引用はご遠慮ください。

ご質問・お問合せ先 財団法人中東調査会 TEL:03-3371-5798、FAX:03-3371-5799